

新年度の交通事故防止



春は、交通環境に不慣れな新入学児童が多くなるとともに、暖かくなり外出する高齢者も多く見られるようになります。

特に新入学児童は十分な注意力が備わっていないことから、ドライバーの予想を超えた行動を取ることがあるので注意が必要です。

こどもや高齢者の特性を理解して事故を防止しましょう

◇ こどもの危険性

新入学の児童などは、通学路に不慣れなことや十分な注意力が備わっていないので、友達などと遊んでいると周りのことが目に入らないことが多い。

- ・ 接近する自動車に気づかない
- ・ 周りを確認せずに道路に飛び出す
- ・ 体が小さく、目視やミラーで確認しづらい

そこで、『こどもが飛び出してくるかもしれない』、『こどもがいるかもしれない』と予測（注意）した慎重な運転をしましょう。



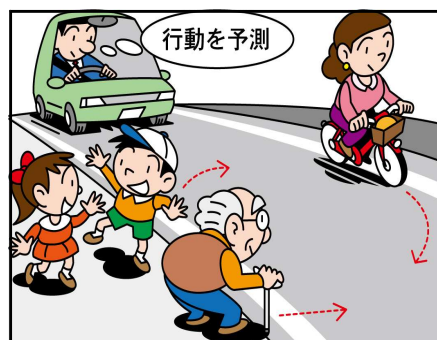
◇ 高齢者の特性

高齢者の中には、近くに横断歩道があっても、横断歩道でないところを横断する方が少なからずいらっしゃいます。

歩道や路側帯に高齢者を見かけたら『横断してくるかもしれない』と予測（注意）した慎重な運転をしましょう。

高齢者は、横断歩道で青信号のうちに横断が間に合わないこともあります。

夜間の生活道路で高齢者を見かけたときは、高齢者が車両に気づいていない場合もあるので十分に注意して、ハイビームを活用しましょう。



『新入学児童等交通安全強化期間』

今年は、統一地方選挙の年なので、春の交通安全運動は5月に実施されますが、宮城県警察では、4月6日から4月15日までの10日間を『新入学児童等交通安全強化期間』と定めて、新入学児童や保護者の交通安全教育（広報）や歩行中の児童等の安全確保のための取組（取締り）を強化することとしています。

会員の皆様も職場やご家庭で交通事故防止の話し合いを行ったり、通勤経路や通学路の危険箇所の確認をするなどして、交通事故を防止しましょう。